幼児が主体的にかかわる自然環境の工夫

～五感を働かせることのできる環境を目指して～

那覇市立真地幼稚園教諭

宮 里 美 貴 江

目次

Ⅰ　テーマ設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

Ⅱ　研究目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

Ⅲ　研究仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

１　基本仮説

２　作業仮説

Ⅳ　研究構想図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

Ⅴ　研究内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

１　幼児期における自然環境の重要性

⑴ 環境について

⑵ 幼児期における自然環境とのかかわりについて

２　五感を働かせた自然体験について

３　幼児理解について

４　教師の役割について

⑴ 活動の理解者としての役割

⑵ 共同作業者としての役割

⑶ 憧れを形成するモデルとしての役割

⑷ 環境構成の工夫

⑸ 言葉かけによる援助

Ⅵ　保育実践　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

１　幼児の姿

２　教師の願い

３　検証保育までの実践

４　検証保育指導案

⑴ 保育仮説

⑵ 保育の展開

Ⅶ　結果と考察　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０

Ⅷ　研究の成果と課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

１　成果

２　課題

《主な参考文献と資料》

《幼児教育》

幼児が主体的にかかわる自然環境の工夫

～五感を働かせることのできる環境を目指して～

那覇市立真地幼稚園教諭　宮里　美貴江

Ⅰ　テーマ設定の理由

教育基本法の改正に伴い，幼稚園教育の目標が，学校教育法の中に明記された。幼稚園教育の基本が，上位の法律に明記されたということは，学校教育のはじまりとしてその重要性が確認されたということである。

幼稚園教育要領第１章総則第１幼稚園の基本において「幼児期における教育は，生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり，幼稚園教育は，学校教育法第２２条に規定する目的を達成するため，幼児の特性を踏まえ，環境を通して行うものであることを基本とする。」また，幼稚園教育要領「環境」の領域の中で，「環境に対して，親しみ，興味をもって積極的にかかわることが大切である。さらに，ただ単に，環境の中にあるものを利用するだけでなく，そこで気づいたり，発見したりしようとする態度を育てることが大切である。」と記載されている。

幼稚園においては，幼児を取り巻くあらゆるものが環境で，幼児が身近にかかわれる自然環境に対して見る，聞く，嗅ぐ，味わう，触れる等，五感を通しての体験は，幼児の心を揺さぶる感情体験であり，体験を通した経験は，好奇心や探求心を培う上での基礎となるのではないかと考える。

幼児を取り巻く環境が，都市化，核家族化，情報化など急激な変化が見られる中で，本園においても，幼児の身近に自然環境が少ないため，自然と触れ合うことや戸外で遊ぶことも難しくなっている。また，核家族世帯が多く，両親共働きも多い。さらに，テレビやゲーム・インターネット等の情報機器の発達により，間接体験が多い生活になっているのが現状である。

本園の園児の実態として，進んで身近な自然や生き物にかかわる子もいるが，あまり興味を示さず，手が汚れることを嫌がる子，生き物に対してかかわり方が分からない子，園庭の草花への水やりなどのかかわりも教師に指示されて取り組む子も少なくない。また，虫が大好きな子が幼虫を捕まえてきた際，教師と一緒に調べたり，共に育て，観察しようとしたりすることもあったが，嫌いという子に対しては，「怖くないよ」「触ってごらん」など，声かけだけで終わってしまうことも多かった。さらに，幼児の実態を捉えて，一人一人が興味・関心をもてるような手立てや，幼児の気付きや発見を受け止め，好奇心や探求心を深めていけるような言葉かけの工夫が足りなかったと反省する。同時に，幼稚園の自然環境を生かして，五感を通した体験ができる園庭の環境の工夫も必要だったと考える。

そこで，幼児が自然環境に興味や関心をもち，五感を働かせながら体験を重ねていくことのできる環境構成や言葉かけによる援助によって，好奇心や探究心を深め，意欲をもって主体的にかかわる幼児を育てるための研究をしたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

幼児が，五感を通した体験を重ねながら，身近な自然環境に主体的にかかわるようになるための環境の構成や援助を工夫する。

Ⅲ　研究仮説

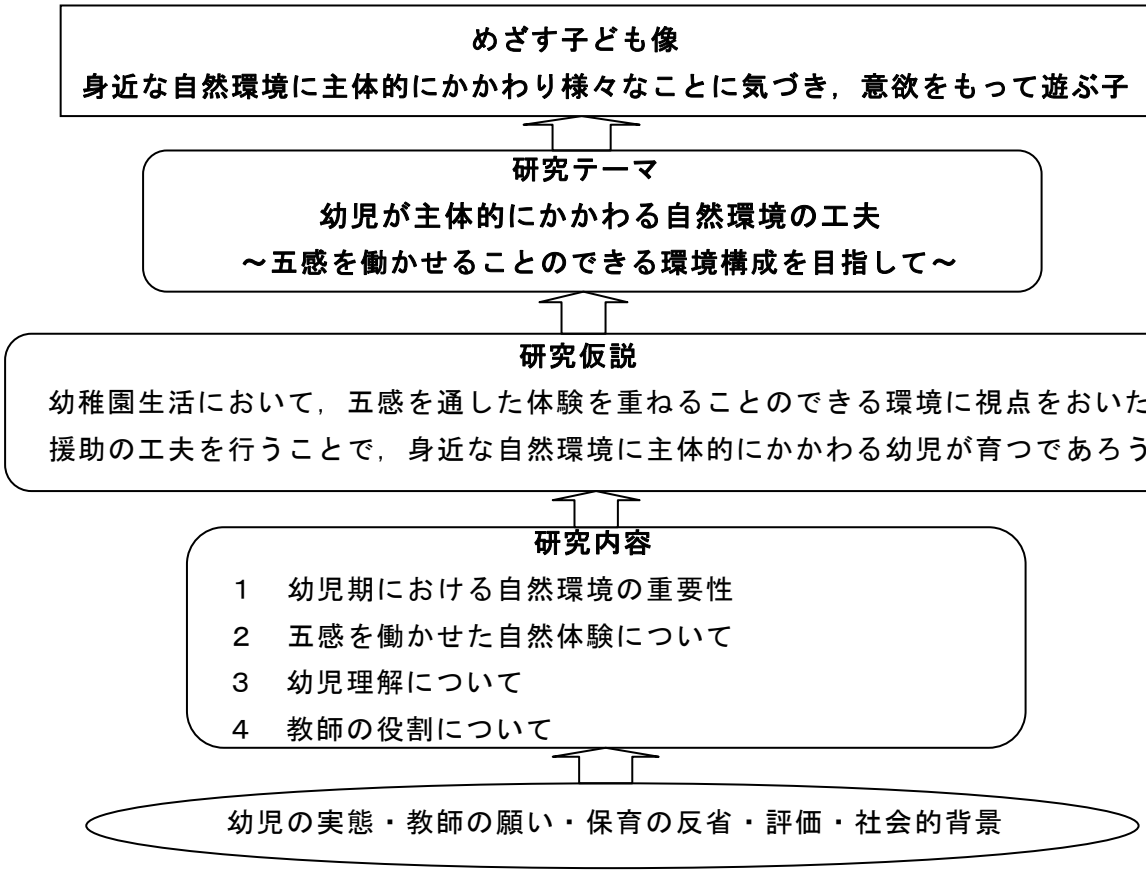
１　基本仮説

幼稚園生活において，五感を通した体験を重ねることに視点を置いた環境構成や援助の工夫を行うことで，身近な自然環境に主体的にかかわる幼児が育つであろう。

２　作業仮説

幼児理解を深め，幼児が五感を働かせながら体験を重ねていけるように環境を構成し，幼児の気づきに共感できる言葉かけなどの援助を行うことで，身近な自然環境に主体的にかかわろうとする幼児が育つであろう。

Ⅳ　研究構想図



Ⅴ　研究内容

１　幼児における自然環境の重要性

(1) 環境について

幼児は生活する中で，物や人など様々な環境と出会い，かかわりをもちながら自分の興味や欲求に基づいて直接的・具体的な体験を通して，人格形成の基礎となる豊かな心情や態度が培われる。

また，幼児期は，心身の発達が著しく環境からの影響を大きく受ける時期である。このことから，幼稚園においての経験は，幼児の発達や人間としての生き方に大きなかかわりをもつことになる。

幼稚園要領解説第１章第１節幼稚園教育の基本において，「幼稚園教育においては，教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し，その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して，望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること，すなわち『環境を通して行う教育』が基本となるのである。」と記載されており，幼児期における環境とのかかわりは，とても重要である。

(2) 幼児期における自然環境とのかかわりについて

幼稚園教育要領解説に，自然環境にかかわる内容について，次のように記載されている。

【環境】
- 「園内外の身近な自然に触れて遊ぶ機会が増えてくると，その大きさ，美しさ，不思議さに心を動かされる。幼児は遊びを繰り返し様々な事象に興味や関心をもつようになっていくことが大切である。」
- 「自然の大きさ，美しさ，不思議さなどに直接触れる体験を通して，幼児の心が安らぎ，豊かな感情，好奇心，思考力，表現力の基礎が培われる」
- 「身近な事象や動植物に対する感動を伝えあい，共感しあうことなどを通して……中略……親しみや畏敬の念，生命を大切にする気持ち，公共心，探究心などが養われる」

【健康】
- 「自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより，体の諸機能の発達が促される」

【人間関係】
- 「自然や身近な動植物に親しむことを通して豊な心情が育つ」

【表現】
- 「豊かな感性は自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの，優れたもの，心を動かす出来事などに出会い，そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し，様々に表現することを通して養われる」

上記のように幼児が自然環境にかかわり，体験を重ねていくことは，幼児の生涯にわたる人格形成の基礎を培っていく上で，とても重要であることが述べられている。

アメリカの海洋生物学者のレイチェル・カーソンは，『センス・オブ・ワンダー』の中で，自然体験によって身につけたい感性の重要性を次のように述べている。「『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要でないことを信じています。子ども達が出合う事実のひとつひとつが，知識や知恵を生み出す種子だとしたら，様々な情緒や豊かな感受性は，この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は，この土壌を耕すときです。」と述べている。これは，幼稚園教育要領解説の内容の(1)中の「自然と出会い，感動するような体験は，自然に対する畏敬の念，親しみ，愛情を育てるばかりでなく，科学的な見方や考え方の芽生えを培う上で基礎となるものである。」と合致する内容である。

このように幼児が自然とかかわり，その世界に触れ，その不思議さに深い驚きや畏敬の念，喜びや感動を覚えるという感覚は，幼児期にもっとも強く発達するという考えで，「知る心」の前に「感じる心」が大切であり，これは，自然との触れ合いなどを通して培われ

ていくため，幼児にとって自然環境とのかかわりは重要であるといえる。

2　五感を働かせた自然体験について

幼児が，体験で使う五感とは，対象を注意深く見ようとすること，聞こうとすること，臭いを嗅いでみようとすること，どんな味がするのだろうと味わってみること，どんな感触だろうと触ってみること等，興味や関心をもって体験し，そこから感じとった感覚のことと捉える。

幼児が，小動物や草花を育てることを通して五感で感じる体験について，幼稚園教育要領解説「環境」の中に「生きているものへの温かな感情を芽生えさせ，生命を大切にしようとする心が育つ。」と記載されており，幼児期から意識して生命の尊さをはぐくんでいくために大切な体験であることが述べられている。また，様々な自然の事象に触れる機会を多くもつことにより，木の実や草花など自然の恵みを取り入れ，触れたり確かめたりしながら，遊ぶ楽しさを十分に味わい，その性質や仕組みなどを感じ取ることにもなる。そのため，他人からではなく幼児自身が五感を通した体験が大切になってくる。

これは，幼稚園教育要領解説「環境」の内容においても「単に自然の事象についての知識を得ることではなく，自然の仕組みに心を動かし，ささいなことであってもその幼児なりに遊びの中に取り入れていくことが大切である。」と記載されている。したがって，幼児期は，全身でいろいろなことを感じ取ることが大切であり，知識以上に体験を重ねていくことが重要となってくる。

体験は，自然との出会いを通して，豊かな感情や好奇心をはぐくみ，思考力や表現力の基礎を形成する重要な役割をもつ。これまで幼稚園教育で大切に培ってきたことが，さらに小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながっていく学びともなる。

そこで，小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し，日常の保育の中で，幼児期にふさわしい生活を通し，創造的な思考や生活態度などの基礎を培うことができるように幼児の姿に視点をおいて整理してみた。

〈創造的な思考の基礎〉

① たとえうまくできなくても，そのままあきらめるのではなく考え工夫している。

② 新たなことに，さらに興味をもってかかわっている。

〈主体的な生活態度の基礎〉

① 物事に積極的に取り組む姿勢や自分なりの生活をつくっている。

② 自分を向上させようとする意欲や集団で過ごすことの楽しさや充実感を味わっている。

幼児自身の体験を重ねることが必要であり，五感を通した自然体験は，主体的な幼児の育成になくてはならない体験である。これは，創造的な思考の基礎や主体的な生活態度の基礎を身につけることにもつながっていく。幼児がその幼児なりに繰り返しいろいろなことを体験してみることやその過程を楽しみ，友達や教師とかかわっていく中に幼児の学びがあるのである。

3　幼児理解について

幼稚園教育を行う上で大切なことは，まず幼児理解を深めることである。教師は，幼稚園生活をともにしながら，その幼児が今何に興味をもち，感じ，実現しようとしているのか，

そして，どのような経験が必要なのかを捉え続けていかなければならない。
保育を進めていく中で大切なねらいや内容も，幼児理解に基づいて設定していくことが必要であり，幼児が発達に必要な経験ができるような環境の構成や教師のかかわり方も幼児理解を深めることで具体的で充実したものになる。
幼稚園教育要領解説では幼児理解をする上で発達の特性の主なものを次のように示している。

・身体が著しく発育し活動が高まることでさらに，他の心身の諸側面の発達も促されていく。
・大人への依存を基盤としつつ，自立へ向かう時期である。
・自分の経験から自分のイメージを形成し物事を受け止め友達と活動を展開できるようになる。
・信頼や憧れをもって見ている周囲の対象の言動態度などを模倣したり，行動に取り入れたりする
・環境に能動的にかかわることを通して，人々と交渉する際の基本的な枠組みとなる事柄について概念を形成する。
・やってよいことや悪いことの基本的な区別ができるようになってくる。

幼児期の特有の発達の特性を理解し，幼児の発達を踏まえた教育を行うことが大切である。

4　教師の役割について

教師は，幼児一人一人との温かな関係を築いていくことが大切である。
また，幼児の主体的な活動を促すための教師の多様なかかわりが大切になってくる。

(1) 活動の理解者としての役割

教師は，幼児のこれまでの経験や，今取り組んでいる活動がどのように展開してきたのかを理解するために，家庭との連携を図りながら，個々の幼児の園での様子を家庭における様子と総合的に重ね合わせ幼児の活動を理解することが大切である。

(2) 共同作業者としての役割

教師は，幼児と同じ目線でものを見つめ，共鳴する者，共同作業者としての役割も，大切である。幼児の心の動きや行動を理解することができ，教師と一緒に活動できる楽しさから，次の活動へ意欲的にかかわることができる。

(3) 憧れを形成するモデルとしての役割

教師はモデルとしての役割があることから，自らの言動が幼児の言動に大きく影響することも認識しなければならない。

幼児は，教師が活動を楽しみ，集中して取り組む姿に触発され，新しいことに意欲をもってかかわり，工夫して取り組む事を学んでいく。

幼児との共同作業者や，**憧れを形成するモデルと**しての役割について，田中真介氏（発達研究者）は,「子どもの豊さをはぐくむために，生産教育というのは，先生も共に働くことによって，子どもが認識するすじみちを教師の姿を見ながら把握できることから，子どもとの間に，発達的共感に基づく『期待のシステム』を生み育てることができやすい。その意味で生産教育は，大変よいアナログ的な教育現場となっている。」と教師の役割を幼児の発達を促す面から重要であると述べている。

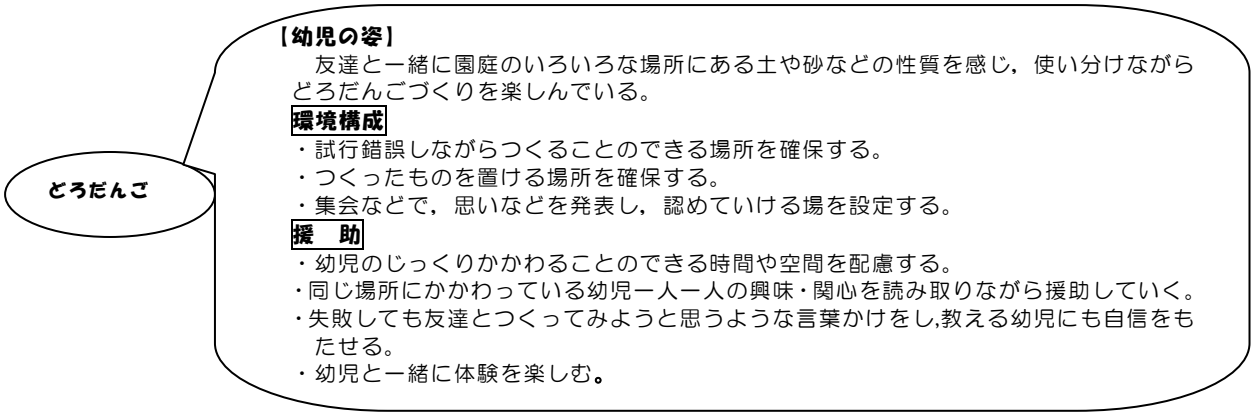
(4) 遊びの援助者としての役割

教師は，幼児一人一人の発達や体験に目を向け，次の活動への動機付けとなるように共感し,体験からどのような興味や関心が生じてきたかを理解することが大切である。また，幼児の興味や関心を追求できるようにすることや，五感を通して感じ取ったこと，体験か

ら学んだことを読み取り，発展できるように環境に配慮することも大切である。

(5) 環境構成の工夫

幼児の体験する活動が質のあるものとなるように環境を構成するには，幼児の興味・関心のあり方，環境へのかかわり方などの発達の実情を理解することが必要である。その上で，じっくりかかわれるだけの時間，空間などの確保が重要である。また，幼児が必要な体験を積み重ねていくことができるように教師は，教育的な価値を含ませながら，計画的に環境を構成していかなければならない。



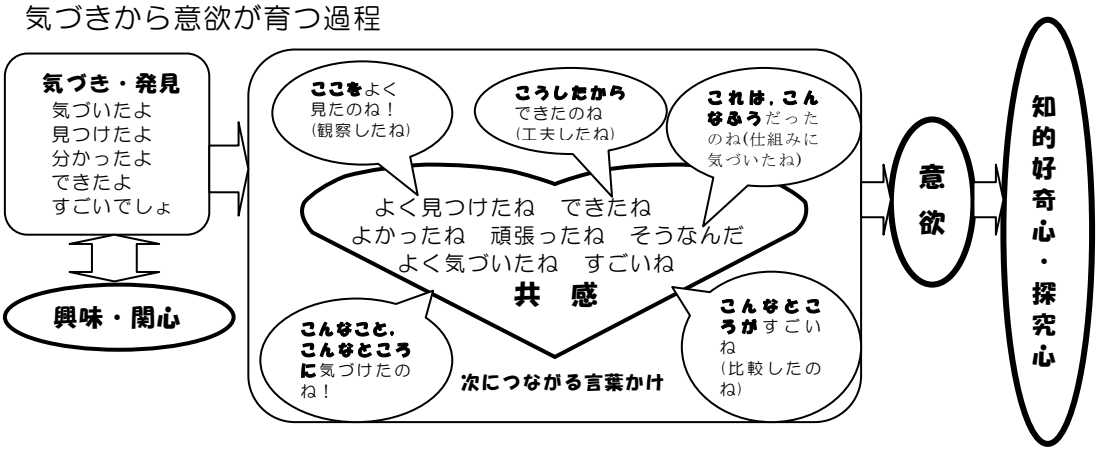
また，同じ環境であっても，幼児が環境にかかわって生み出す活動は，一人一人異なることから，幼児の環境との出会いや活動の展開を予想しながら，必要な援助を考えていくことも大切である。

(6) 言葉かけによる援助

もう一つの教師の役割として，幼児の気づきを温かく見守り，大事にしてやることが大切である。幼児は，身近な環境に触れたり，確かめたり繰り返しかかわったりする中で，興味や関心を持ち続けていく。そのような活動を刺激していく言葉かけが，好奇心や探求心などを促していくことになると考える。

これまでの，共感する言葉かけももちろん必要であるが，好奇心・探求心を深め，次への活動につながる言葉かけを意識することも大切だと考える。

気づきから意欲が育つ過程



教師のかかわりは，これらの役割が相互に関連するものであり，状況に応じた柔軟な対応をすることが大切である。

Ⅵ　保育実践

１　幼児の姿（実態）

本園の保護者を対象に「自然環境へのかかわりに関するアンケート」（調査日：平成２１年１２月７日　対象：園児保護者６５名　回収率 72､3%）を行った。その結果，「自然と触れ合える場所があるか」という質問や，家庭において，「自分で世話のできる動植物などがあるか」という質問に「ない」「どちらかといえばない」との答えが両方とも約６割を占めていた。このことから，地域に半数以上の幼児が自然環境とのかかわりが，少ないということが伺える。そのためか，休みの日には，積極的に親子で戸外に出かけている幼児が約８割いた。しかし，休日でもあまり戸外へ出かけない幼児約２割や外で遊ぶことが好きでない幼児が約１割いることから，幼稚園で自然とかかわるきっかけや興味・関心のもてるような環境構成や援助が必要であると考える。

幼稚園では，幼児が園庭の恵まれた環境の中で，一学期から草花の世話や，一つの種にも命があることを感じながら草花を大事に育て，野菜を育てることをしながら，収穫や食することの喜びや体験などを重ねてきた。

また，最近では，親子で植えた花や，野菜の生長を楽しみにしながら水やりや世話をする姿や，新しい草花を見つけ，友達や教師に知らせようとする姿，自分で看板を作って立てて楽しんでいる姿があり，幼児なりに興味や関心をもって意欲的にかかわるようになってきた。また，様々な木の実や葉っぱなどを利用してままごと遊びや木の実を利用した音の出るおもちゃ作りなどを楽しむ姿も見られる。 しかし，中には，自然にも興味や関心はあるものの，コマ回しや竹馬などを選んで，夢中になって取り組んでいる幼児もいる。

２　教師の願い

先週から引き続き，幼児が，友達と刺激し合いながら，木の実や葉っぱを使ったごちそうづくり，おもちゃづくりをしている姿がみられる。幼児が意欲をもった主体的な活動になるように，幼児が思い思いに取り組んでいる遊びに共感しながら，環境の構成や援助をしていきたい。桜の木の下で遊びながら，桜の開花に気づいたり，自分で植えた野菜や植物の生長に気づいたりするなど，身近な自然環境にかかわる中で，気づきや，発見していく援助をしていきたい。また，幼児の気づきや発見に共感できる言葉かけなどを行いながら，幼児が自分から調べたり，表現したりすることを通して充実感も味わわせていきたい。

さらに，４月から継続してかかわっているどろだんごづくりでは，砂や土の質の違いを感じ，使い分けをしながら工夫してかかわっている姿を認め，共感しながら，幼児の知的好奇心を支え，友達と一緒に遊びこむ楽しさを味わわせていきたい。

3　検証保育までの実践

	１１月 第４週 11/30 「園庭マップを作ろう」	１２月 第１週 12/4「看板作りをしよう」
ねらい	・園庭にあるいろいろな草花に気づき親しみをもつ。	・草花に親しみをもち，大切にしようとする気持をもつ。
内 容	・教師や友達と一緒に，園庭の探検をする。 ・描きたい草花を見つけて，友達と一緒に楽しく描く。 ・大きな園庭のマップにみんなの描いた絵を見ながら，貼っていく。	・描きたい草花を選び，よく見ながら，看板にペンキを使って丁寧に描く。 ・友達と相談しながら丁寧に描き，出来た看板を立てる。
環境構成	・大きなコルクボードに園庭を描いたものを貼り，幼児が興味をもって関かかわれるコーナーをつくる。	・グループで相談しながら描けるように席をつくり，描こうと思った草花を図鑑や絵本などで調べられるようにする。 ・ペンキ，マジックなど幼児が使いやすいようにグループで分けておく。
援 助	・幼児が気づいたことを発見し認め共感できる言葉かけなどをする。 ・かかわりをもてない幼児と一緒に身近な自然に，親しみがもてるように園庭探検をする。	・幼児が気づいたこと発見したことを認め共感できる言葉かけをする。 ・幼児が思い思いのイメージを出し合える雰囲気をつくり，様子を見守りながら必要に応じて一緒に調べたり字を書いてあげたりする。
活動の様子	・友達と一緒に園庭のマップを持って探検し，描きたいと思った草花を見つけ座り込んで，幼児それぞれの表現　を楽しんでいた。 ・友達と一緒に描いたものをマップに貼ることを楽しんでいた。 ・「こんなところに花が咲いているよ。すごいね。」と，排水溝の中で咲いている花に気づき，草花　の生命力に感動していた。 ・興味がもてなくて，なかなか描けない子がいた	・２～３人のグループで描きたい草花を相談しながら，役割分担し，描いていた。 ・作った看板を立てる場所を友達と相談し立てた場所を友達に教えていた。
反 省 評 価	・マップを作ることで，園庭の草花に親しみをもち，描こうとする姿が見られた。 ・友達の発見に共感し，自分も描いてみようと興味を持ちかかわる姿が見られた。	・友達と相談しながら図鑑で調べて，意欲をもって描こうとする姿が見られた。 ・迎えにきたお母さんに，看板のある場所に案内して見せるなど，園庭に親しみをもってかかわる姿が見られた。
課 題	・興味をもって描くのではなく，描かされているという様子の幼児もいた。 幼児が心を動かすことができるような援助や幼児一人一人の姿を捉える必要がある。	・グループでの取組だったので，自分の思うように表現できなかったところもあった。 見つけたり，気づいたりしたことを調べることができたり調べたことを表現できる環境構成をする必要がある。

１月　第２週　「身近な自然とかかわって遊ぼう」	１月第　３週　「身近な自然とかかわって遊ぼう」
・身近な自然とふれあう中で，興味や関心をもち，遊び の中に取り入れて遊ぶ。	・身近な自然環境に自分からかかわりながらいろいろなことに気づいたり考えたりして楽しく遊ぶ。
・身近な木の実や草花を使って音の出るおもちゃ作りを 楽しむ。 ・友達と一緒にいろいろな材料や木の実などの自然物を利用して遊ぶ。 ・園庭のいろいろな場所にある土や砂の性質を感じながらどろだんごをつくる。	・身近な自然物を利用して遊ぶ。 ・自分で調べたり，気づいたりしたことを友達に知らせたりする。また，看板作りをする。 ・桜の開花や草花の変化に気づけるように，桜の木の下でレストランごっこをする。 ・園庭のいろいろな場所で土や砂の性質を使い分けながらどろだんごづくりをする。
・園庭で集めた木の実や，家から持ってきた自然物を使いやすいように分類する。 ・廃材などいろいろな材料を分類し，分かりやすいように表示する。 ・幼児が見つけてきた自然物を飾る場所や，水栽培などのコーナーを作る。 ・試行錯誤しながらどろだんごをつくることができる場の確保。	・教室は，幼児が興味，関心のもてるような環境をつくる。 ・廃材などいろいろな材料のコーナーを作る。 ・作品を飾っておける場所を準備しておく。 ・園庭では，テーブルや材料など幼児と相談しながら環境を作っていく。
・幼児が気づいたこと，発見したことを認め，共感するような声かけをする。 ・幼児と一緒に遊びながら，幼児の思いを受けとめ，木の実を使ったおもちゃづくりの遊びが広がるように幼児の思いに心を寄せ，一緒に遊びを楽しむ。	・幼児が気づいたこと，発見したことを認め，共感できる言葉かけをしていく。 ・工夫しながら作ろうとしている姿や気持ちを認め他の幼児へも伝えていく。
・スイートピーや大根の芽が出たことなど，草花の生長や発芽に気づき，発見したことを友達や先生に喜んで知らせている。 ・友達と一者に，いろんな木の実や葉っぱを使って作ることを楽しんでいる。 ・作ったどろだんごを大切に扱い，誰にも見つからないように友達と相談しながら園庭に隠し，明日への期待をもっている姿が見られた。	・園庭では，身近な自然とかかわりながら，友達に刺激されて自分なりに，おもちゃ屋さんやごちそう作りなど楽しむ姿が見られる。 ・桜の開花に気づき，知らせ合ったり，大根の発芽の様子を観察したり，フロックスの発芽を心待ちにしながら水やりをしている。 ・身近ないろいろな材料を使って，楽器作りをしたり，描いたり，作ったりして遊んでいる。 ・ごちそう作りにかかわる幼児が増え，遊んでいる場所が狭くなってきた。 ・片付けの時，使ったごちそうの木の実などが，全部混ざってしまい，分けようとする幼児もいた。
・おもちゃ作りやごちそう作りなど，身近な自然に興味をもってかかわる姿が見られた。 ・どろだんごづくりでは，何度も失敗しうまくつくることのできない幼児もいる。	・幼児がそれぞれの思いをもちながら，「レストラン」や「おもちゃ屋さん」「どろだんごづくり」「砂遊び」などに友達と一緒にかかわる姿が見られた。
・友達と一緒におもちゃなどたくさん作ったり，どろだんごづくりなどにかかわったりしているが，それをどうしたら楽しくなるのか幼児の相談にのりながら一緒に共感し，思いを読み取り，主体的な活動となるように援助していく必要がある。	・主体的な活動になるように援助するために「レストラン」や「おもちゃ屋さん」では，幼児が工夫して取り組んでいる姿を認め，必要に応じて材料を一緒に探したり，分類したりする。また，幼児が使いやすいように，テーブルを準備する。 ・「楽器作り」では，木の実の量を考え，いろいろな材料で作っている姿を認め，音の違いの不思議に共感し，材料を使いやすいように分類する。 ・「どろだんごづくり」では試行錯誤しながら取り組んでいる姿を認め，じっくりかかわれる場や時間を確保する。 ・「砂遊び」では，友達と一緒に，自分の思いを言葉で伝え合い協力しながら遊べるように援助する必要がある。

4　検証保育指導案

(1) 保育仮説

身近な園庭の環境を工夫し，五感を働かせてかかわれる体験を重ねることで，自然環境に主体的にかかわろうとする幼児が育つであろう。

(2) 保育の展開

<table>
<tr><td>幼児の姿</td><td colspan="3">○園庭では，友達に刺激されて自分なりに，木の実などを使って，お店屋さんやごちそう作りなどを楽しむ姿が見られる。
○桜の開花に気づき，喜び，知らせ合ったり，大根の発芽の様子を観察したりしている。
○フロックスの発芽を心待ちにし，水やりをしながら，親子で植えたベゴニアやインパチェンスに関心をもってかかわっている。
○友達と一緒に園庭のいろいろな場所にある土や砂の性質の違いを感じ，使い分けながら工夫してどろだんご作りを楽しんでいる。
○空き箱や木の実などを使って，木の実の量を調整しながら，楽器作りをしたり，新しく見つけた草花の名前を図鑑で調べて，友達と一緒に看板作りやマップ作りをしたりしている。
○木登り，竹馬，こま回しなど友達と一緒に時には教え合いながら，挑戦している。
○誕生会のカラオケ大会に向けて，友達と一緒に振り付けを確認し合いながら，歌の練習をしている。</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td>○身近な自然の変化や野菜の生長に気づいたり，友達と一緒に自然物を使い，工夫したり，考えたりしながら遊びをすすめる。
○自分なりの目標に向かって挑戦する。</td><td>内容</td><td>・教師や友達と一緒に愛情をもって植物にかかわる。
・桜の木の下でレストランや，おもちゃ屋さんごっこをする。
・友達と一緒に木の実や草花をごちそうに見立てて遊んだり，楽器やおもちゃなどを作ったりする。
・園庭のいろいろな場所で，土や砂の性質の違いを感じながら，どろだんごづくりをする。
・コマ回しや，竹馬に友達と一緒に挑戦する。</td></tr>
<tr><td>時間</td><td>予想される幼児の活動</td><td colspan="2">教師の援助</td><td>環境構成</td></tr>
<tr><td>8:15
朝のひととき</td><td>○登園
・挨拶をする
・所持品の始末，おたより帳にシールを貼る。名札をつける。

○朝の集まり
・一日の流れを知る
・絵本の読み聞かせを聞く。
「１こでも１００このりんご」

○朝の活動
・園庭の清掃，草花への水やり，生き物の世話

○　好きな遊びをする。
《戸外》
おもちゃ屋さん，レストランごっこ，楽器づくり

※具体的な援助は，別紙参照</td><td colspan="2">・一人一人と笑顔で挨拶を交わし，楽しい１日になるように声かけをしながら視診を行う。
・所持品の片づけをスムーズに行っているか確認する
・１日の予定を伝え，見通しをもって生活がでるようにする。
・絵本の読み聞かせをした後，意欲をもって遊びに取り組めるように声をかける。

・安全を確認しながら，子どもと一緒にジョウロの準備をし，タライに水をためる。
・幼児と一緒に活動にかかわり，きれいになった気持ちよさを共感する。

・幼児が工夫して取り組んでいる姿を認め，必要に応じて一緒に材料を探す。</td><td>・教室の換気
・今日の活動に見通しをもって活動が進められるようカードの視覚教材を準備する

・行事に関心がもてるようにムーチーについて　コーナーを作る

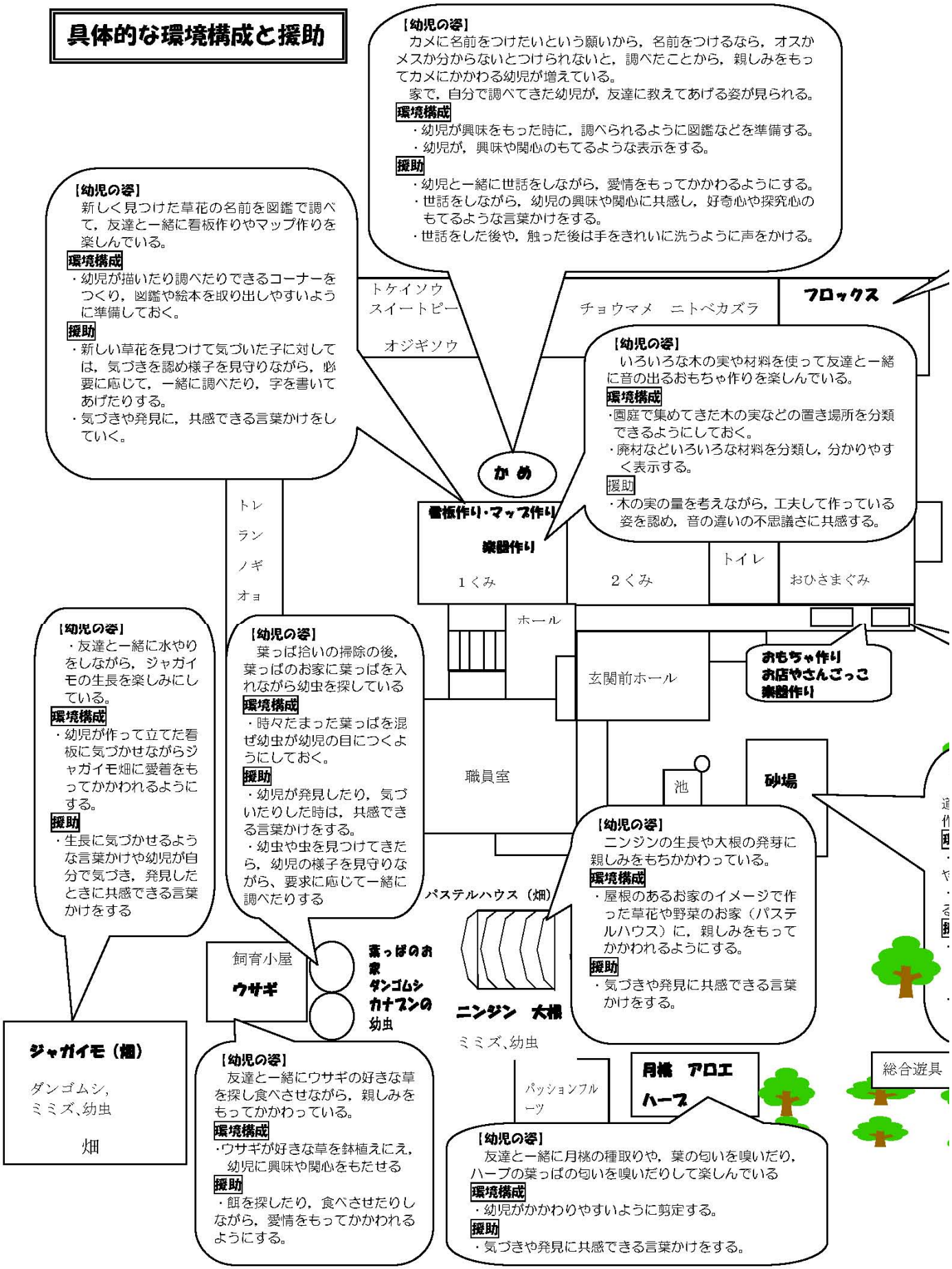
・タライ，ジョウロ，ホウキの確認

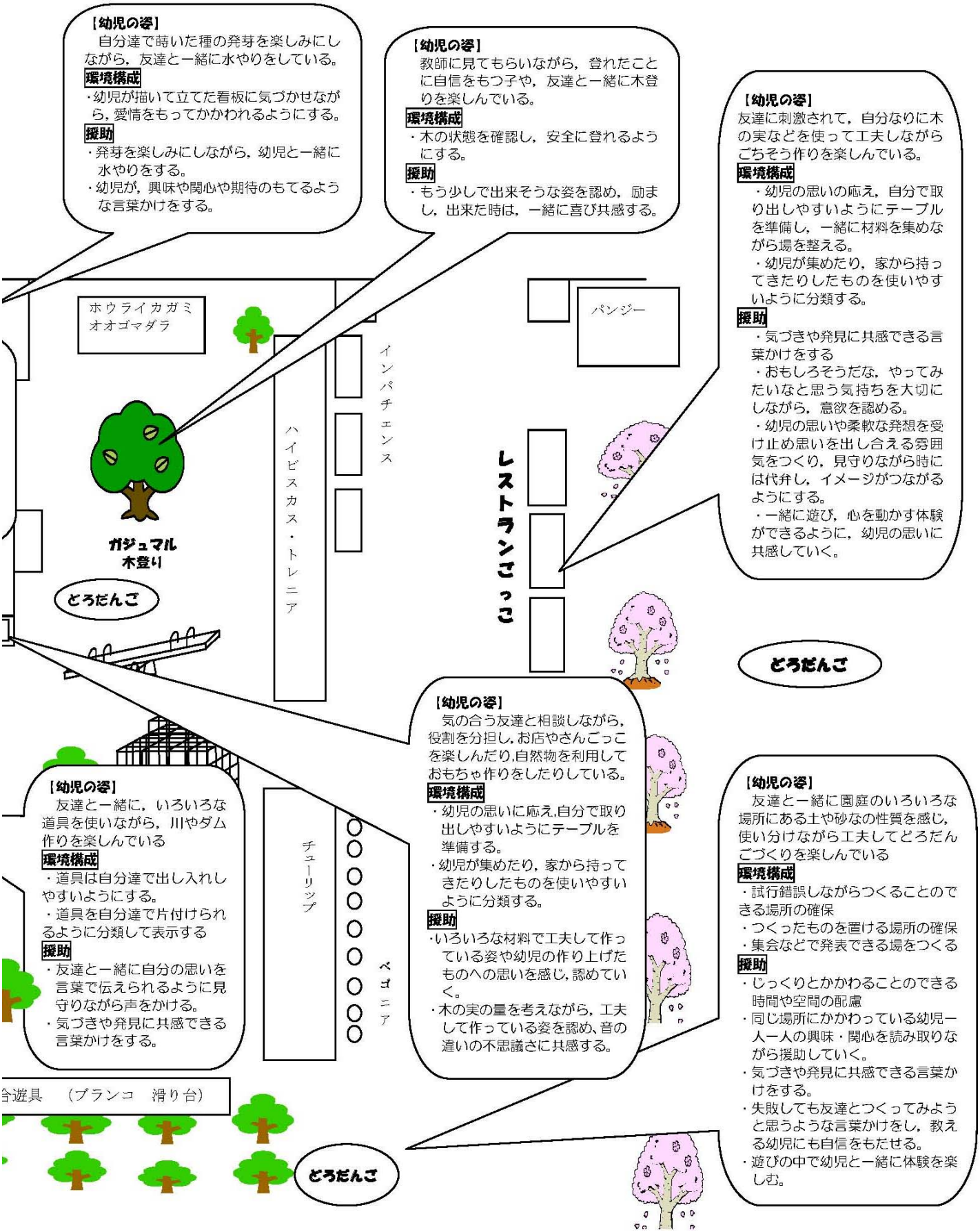
《戸外》
・幼児が使いやすいようにテーブルの準備をする。</td></tr>
</table>

時間	予想される幼児の活動	教師の援助	環境構成
好きな遊び　園庭・室内	**生き物とかかわる**	・ウサギやグッピー，カメの・世話をしながら，観察をしたり，調べたりできるように援助する。	・幼児が興味を持った時，調べられるように図鑑などを準備しておく。
	砂遊び	・友達と一緒に，自分の思いを言葉で伝え合ったり，協力したりしながら遊べるように援助する。	・自分たちで，出し入れが出来るようにする ・道具を自分たちで片付けられるように分類し，表示する。
	どろだんごづくり	・失敗しても友達とつくってみようと思うような言葉かけをし，教える幼児にも自信をもたせる。	・幼児が試行錯誤しながら取り組んでいる姿を認め，じっくりとかかわれる場や時間を確保する。
	木登り，こま回し，竹馬	・一人一人が自分の目標に向かって挑戦している姿を認め，励まし次の意欲につながるようにする。	・木の状態を確認し安全に登れるようにする。 ・自分で取り出して乗れるように，壁の近くに置く。 ・こまは，周りで遊んでいる友達に当たらないように広い場所を確保する。
	《室内》 **看板作り** **マップ作り**	・新しい草花を見つけて気づいた子に対しては，気づきを認め様子を見守りながら，必要に応じて，一緒に調べたり，字を書いてあげたりする。	**《室内》** ・幼児が家で作ってきた竹のうちわや虫かごなどを展示しておく。 ・作品を飾っておける場所を準備しておく
	こま回し	・自分なりの目標をもって頑張っている姿や友達と教え合ったりする姿を認める。 ・友達と一緒に出来るようになった喜びを共感しあえる雰囲気をつくる。	・こまは，周りで遊んでいる友達に当たらないように広い場所を確保する。
	楽器づくり	・木の実の量を考え，いろいろな材料で工夫して作ったりしている姿を認めたり，音の違いの不思議さに共感したりする。	・園庭で集めた木の実などの置き場所を分類できるようにしておく ・廃材などいろいろな材料を分類し，分かりやすく表示する。
9:45	○片付け ・使ったもの片付ける。	・明日の遊びにつなげつつ，片づけを頑張れるように声をかける。またきれいに片づいた後の心地よさを共感する。	・片付ける場所を分かりやすく表示する。
10:00	○教室に入り手洗いうがいをする。	・丁寧に手を洗い，うがいをしているか確認をする。	・うがい，手洗いの大切さを知らせる表示。 ・手洗い場，石けんの確認

引　継　ぎ

具体的な環境構成と援助




【幼児の姿】
自分達で蒔いた種の発芽を楽しみにしながら，友達と一緒に水やりをしている。
環境構成
・幼児が描いて立てた看板に気づかせながら，愛情をもってかかわれるようにする。
援助
・発芽を楽しみにしながら，幼児と一緒に水やりをする。
・幼児が，興味や関心や期待のもてるような言葉かけをする。
【幼児の姿】
教師に見てもらいながら，登れたことに自信をもつ子や，友達と一緒に木登りを楽しんでいる。
環境構成
・木の状態を確認し，安全に登れるようにする。
援助
・もう少しで出来そうな姿を認め，励まし，出来た時は，一緒に喜び共感する。
【幼児の姿】
友達に刺激されて，自分なりに木の実などを使って工夫しながらごちそう作りを楽しんでいる。
環境構成
・幼児の思いの応え，自分で取り出しやすいようにテーブルを準備し，一緒に材料を集めながら場を整える。
・幼児が集めたり，家から持ってきたりしたものを使いやすいように分類する。
援助
・気づきや発見に共感できる言葉かけをする
・おもしろそうだな，やってみたいなと思う気持ちを大切にしながら，意欲を認める。
・幼児の思いや柔軟な発想を受け止め思いを出し合える雰囲気をつくり，見守りながら時には代弁し，イメージがつながるようにする。
・一緒に遊び，心を動かす体験ができるように，幼児の思いに共感していく。
ホウライカガミ
オオゴマダラ
パンジー
インパチェンス
ハイビスカス・トレニア
レストランごっこ
ガジュマル
木登り
どろだんご
どろだんご
【幼児の姿】
気の合う友達と相談しながら，役割を分担し，お店やさんごっこを楽しんだり，自然物を利用しておもちゃ作りをしたりしている。
環境構成
・幼児の思いに応え，自分で取り出しやすいようにテーブルを準備する。
・幼児が集めたり，家から持ってきたりしたものを使いやすいように分類する。
援助
・いろいろな材料で工夫して作っている姿や幼児の作り上げたものへの思いを感じ，認めていく。
・木の実の量を考えながら，工夫して作っている姿を認め，音の違いの不思議さに共感する。
【幼児の姿】
友達と一緒に，いろいろな道具を使いながら，川やダム作りを楽しんでいる
環境構成
・道具は自分達で出し入れしやすいようにする。
・道具を自分達で片付けられるように分類して表示する
援助
・友達と一緒に自分の思いを言葉で伝えられるように見守りながら声をかける。
・気づきや発見に共感できる言葉かけをする。
チューリップ
ペコニア
【幼児の姿】
友達と一緒に園庭のいろいろな場所にある土や砂なの性質を感じ，使い分けながら工夫してどろだんごづくりを楽しんでいる
環境構成
・試行錯誤しながらつくることのできる場所の確保
・つくったものを置ける場所の確保
・集会などで発表できる場をつくる
援助
・じっくりとかかわることのできる時間や空間の配慮
・同じ場所にかかわっている幼児一人一人の興味・関心を読み取りながら援助していく。
・気づきや発見に共感できる言葉かけをする。
・失敗しても友達とつくってみようと思うような言葉かけをし，教える幼児にも自信をもたせる。
・遊びの中で幼児と一緒に体験を楽しむ。
含遊具　（ブランコ　滑り台）
どろだんご

Ⅶ　結果と考察

【仮説の検証】

幼児理解を深め，幼児が五感を働かせながら体験を重ねていけるように環境を構成し，幼児の気づきに共感できるような言葉かけなどの援助を行うことで，身近な自然環境に主体的にかかわろうとする幼児が育つであろう。

桜の木の下でレストランごっこ

これまでの姿

集めた木の実や葉っぱなどを飾る幼児や，集めたものを分類し，音の出るおもちゃ作りをしたり，飾りものを作ったりしながら，おもちゃ屋さんへと発展し，楽しんでいた。

他にも使える木の実や材料があるのかなどの話し合いの後から，教室のコーナーより広い場所に移動したいとコーナーを園庭に近い廊下へと移動した。

その後，木の実を使ってごちそう作りをする幼児や，桜祭りへ行ってきた幼児のイメージから園庭でごちそうを作って出したいと声があり，桜の木の下へ移動し遊びを進めていた。

【手立て】

〈環境構成〉

① 幼児の思いに応えながら，幼児が取り出しやすいようにテーブルを準備したり，材料を集めたりしながら，環境を整える。

② 幼児が集めたり，家から持ってきたりした物を使いやすいように分類できるようにする。

〈援助〉

③ 気づいたり，発見したりしたことに共感できるような言葉かけをする。

④ 一人一人の思いを十分読み取ってその子なりの表現を認めていく。

⑤ 幼児の思いや柔軟な発想を受け止めながら思いを出し合える雰囲気を作り，見守りながら時には，代弁し，イメージがつながるようにする。

⑥ 幼児と一緒に遊び，心を動かす体験ができるように，幼児の思いに共感していく。

【結果】

幼児の変容

○木の実や自然物を利用し，新しく仲間入りした友達のアイディアも取り入れながらムーチーハンバーグ，おだんごなどの新メニューを考え，一緒に工夫しながら遊びを進めていた。

○遊びの中で，目の前にある物だけでなく，ガジュマルのひげを，紐の代わりにし，ムーチーの葉を結ぶなど，身近な環境の中から使える物を見つけ出し，遊びの中に取り入れていた。

【考察】

〈環境構成〉

① 幼児の思いに応える環境作りをしていくことで，身近な自然にかかわりながら，自分達で考え，意欲をもって遊びを進めていけたのではないかと考える。

② 分類することで，イメージを膨らませたり，もっと集めてきたりするなど，工夫しながら，興味や関心をもって遊びを進めていけたと考える。

〈援助〉

③ ガジュマルのひげでムーチーを結ぶ紐代わりに使っている幼児がいた。幼児の気づきに共感できる言葉かけをすることで，友達に教えてあげるなど自分に自信をもって行動していた。このような体験を重ねることで，次の発見をしようとする意欲につながっていくのではないかと考える。

④ ごっこ遊びの仲間に入らずに友達の様子ながら遊んでいた子が，自分なりにごちそうを作り，教師に認めてもらうことで友達の仲間へ入り思いを伝え満足感を味わえたのではないかと考える。

⑤ お互いのイメージを共有することで，役割を分担したり，自分の感情に折り合いをつけたりしながら，主体的に遊びを進めていけた。と考える。

⑥ 日が当たって暑いところより，日陰の涼しいところへ移動したい。という一人の友達の思いに，みんなで共感することで，心を動かし「ここのほうが，すずしいね」という感情を共有する体験ができたと考える。

どろだんごづくり

これまでの姿

入園当初から，砂場で，砂を丸めてつくったり，ザラザラした泥のところでつくったり，園庭のいろいろな場所でどろだんごづくりをしていた。次第に固いだんごづくりをするようになり，場所の移動を繰り返しながら，固くて丸いだんごができるようになった。幼児の中では，固さや，大きさ，光らせることにこだわりを持ち続け取り組む幼児もいる。また，どろだんごをつくったことがない幼児もいる。

【手立て】

〈環境構成〉

① 試行錯誤しながらつくることのできる場所の確保
- どろだんごの芯となるドロドロの状態にできる場所
- ザラザラの砂の場所
- サラサラの細かい砂の場所

② つくったものを置ける場所の確保

③ 帰りの会などで今日の出来事や，楽しかったこと，頑張ったこと，気づいたこと等を振り返り，教師は，共感し認めていく場をつくる。

〈援助〉

④ 気づいたり，発見したりしたことに共感できるような言葉かけをする。

⑤ 失敗してうまくいかない幼児に，上手に作っている友達と一緒につくってみようという気持ちになるような言葉かけをし，教える幼児にも自信をもたせる。

⑥ 遊びの中で，幼児と一緒に体験を楽しむ。

【結果】

幼児の変容

○今まであまりどろだんごづくりにかかわっていなかった幼児が，自分からやってみようという気持ちになり，自分なりに工夫してつくる姿が見られた。

○場所によって，砂の細かさに違いがあることに気づきながら，自分で納得のできる場所で作ることができ，満足していた。

【考察】

〈環境構成〉

① じっくり遊べる場所で遊び，その中で，他にもっといい場所があるのではないかと探したり，水や土，砂の割合などを考え，工夫してつくったりと主体的にかかわっていくようになったと考える。

② 自分の作ったどろだんごを置ける場所を設定することで，大切な物が壊れないようにそっと扱う姿が見られ，友達の大切なものに対する気づかいや，友達とのかかわり方にも関心がもてるようになったと考える。

③ 帰りの会で，発表の場を設け，みんなに認めてもらうことで，達成感や充実感を味わうことができるだろう。また，明日もやりたい，僕もやってみたいな，という幼児の姿が見られ，期待感がもてたと考える。

〈援助〉

④ 砂の感触を楽しみながら，「ここで作ったらうまくいった！」等，砂や土の性質や仕組みに気づきながら，つくることができ，満足感が味わえただろうと考える。

⑤ 何度も失敗しても，またやってみようという幼児の気持ちを支えることで，興味をもって工夫しながら取り組むことができるようになるだろうと考える。

⑥ 一緒に遊びを共有することで，幼児の思いに共感することができ，さらに意欲をもって取り組めたであろうと考える。

この時期の幼児の姿として，仲間を大切にしながら，役割分担や共同遊び，ごっこあそびなど満足するまで取り組もうとする姿と，自然・社会など様々な事象に興味や関心が深まっていく姿を捉えることができる。このことを踏まえ，一人一人の発達を見通し環境を構成していくことで，幼児が豊かな自然体験を重ねていく姿を読み取ることができた。教師が，幼児の感性に気づいた時，その瞬間を見逃さず，幼児の言葉や表現を大切に受け止め，共鳴し，共感する言葉かけを重ねていくことで，豊かな感情や意欲がはぐくまれたと考える。

Ⅷ　研究の成果と課題

１　成果

(1) 五感を意識した環境構成や，幼児の気づきに共感できる言葉かけなどの援助を行うことで，いろいろなことに気づいたり，感じたりしながら，身近な自然環境に主体的にかかわる姿が見られた。

(2) 幼児の実態を捉えながら，教師が幼児と共に自然体験を積み重ねていくことで，身近な自然環境に興味・関心をもち愛情をもってかかわる姿や，自分で調べようとしたり，友達と一緒に考えたりしながら，好奇心や探求心を深めていく姿が見られた。

２　課題

(1) 幼児の発達を促す環境を構成していくために，一人一人の幼児が違った道筋をたどって発達していくことをおさえ，園全体で共通理解を図る必要がある。

(2) 幼児が，多様な自然体験の機会に取り組む事ができるように，地域の環境や保護者，人材を積極的に活用する。

《主な参考文献と資料》

『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　２００８

『幼児理解と評価　幼稚園教育指導資料第３集』　文部科学省　チャイルド本社　１９９２

『センス・オブ・ワンダー』　レイチェル・カーソン　上遠恵子訳　新潮社　１９９６

『実践事例で分かる　援助のポイント１００』　柴崎正行編著　フレーベル館　２００１

『発達が分かれば子どもが見える』　田中真介監修　乳幼児保育研究会編著　ぎょうせい　２０１０

『計画的な環境の構成』　神長美津子編著　チャイルド本社　２００３

『幼児期にふさわしい知的発達』　無藤隆編著　チャイルド本社　２０００

『幼稚園じほう』　全国国公立幼稚園会事務局「じほう部」　２００２　２００４

『那覇市就学ガイド研修資料』　田中真介　2010/01/20